

総合評価結果報告書

施設の名称	静岡音楽館		
課 名	文化政策課		
指定管理者名	(公財) 静岡市文化振興財団		
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日		
評価委員会 開催年月日	令和7年6月2日 (月)		
評価委員 ※ () 内は職名 等を記載してく ださい。	①委員長 望月 雅乃(文化政策課) ②副委員長 平野 英彦(歴史文化課) ③委 員 能口 富(スポーツ振興課) ④ " 北山 敦康(静岡大学 名誉教授) ⑤ " 比留間 彰子(公益財団法人目黒区芸術文化振興財 団めぐろパーシモンホール事業課)		
評価点 (各委員平均点)	90点	評価	☐ A・ B ・ C ・ D ・ E
評価結果詳細	別紙「総合評価結果総括表」のとおり		
総合評価結果を踏 まえての施設所管 課としての意見	1 履行状況について、施設の設置目的等を十分に理解し、良好な運営が行われている。また、適切な施設管理のもと、災害時等の危機管理体制も整えており、安心・安全な維持管理に努めている。 2 指定管理者の創意工夫について、指定管理者の持つ経験やこれまでの実績によって構築されてきたネットワーク及びノウハウを十分に活かした企画がバランスよく実施されている。また、これまで音楽館に馴染みのなかった層にも広報を働きかけ、新規利用者の増加を図っており、一部の事業においては申込数や入場者数が大幅に増加した成果が出たことは大いに評価できる。 3 市民(利用者)のサービスの向上を図るために、利用者の苦情や意見を真摯に受け止め、可能な範囲で改善に努めた結果が、アンケート結果に表れている。また、団体での利用は減少したものの、少人数による練習利用を促進したことにより、リハ室の利用率の向上が成果として表れるなど、利用者のニーズを的確に把握し、利便性の向上に努めた。		

	4 施設固有の評価として、専門性を活かした事業の実施や、人材育成事業の実施を中心に評価を行った。コロナ禍においても、地元在住の新たな音楽家を発掘するプロジェクトである「静岡の名手たち」のオーディションを継続的に実施し、演奏の機会を失わせることのない取組みは高く評価できる。また、新たな取組として市内の中学、高校と連携し、ワークショップを実施し、担い手の育成に努めた。 5 基本的な履行状況から音楽館固有の評価項目まで全体的に高評価であり、非常に良好な運営がなされたと評価できる。 今後も引き続き、地域音楽文化の拠点としての機能を果たすべく、よりよい事業運営を期待したい。
--	--

総合評価結果総括表

施設の名 称 [静岡音楽館] 課名 [文化政策課]
 指定管理者名 [公益財団法人静岡市文化振興財団]

	A 評価 委員	B 評価 委員	C 評価 委員	D 評価 委員	E 評価 委員	平 均 点
1 履行状況の確認 【配点50点】						
(ア) 静岡音楽館の設置目的、基本理念及び使命を理解し、運営を行っている。	13	15	15	15	13	14.2
(イ) 当初、計画書等に示された事業が、予定どおり円滑に実施された。	10	7	10	10	8	9
(ウ) 職員の利用者に対する応対が親切丁寧であり、利用者に安心感を与えるとともに、利用者の信頼感を得られるよう努めている。	4	4	5	5	5	4.6
(エ) 地震・停電等の災害・事故発生時の危機管理体制を整備しており、発生時には迅速かつ的確な対応を行った。	5	5	4	5	5	4.8
(オ) 適切な能力を持った職員が適切な人数配置された。	4	5	5	5	4	4.6
(カ) 収支状況において、概ね予算のとおりに執行されており良好であった。	4	4	4	5	5	4.4
(キ) 施設の保守・管理・点検・清掃等が適切に実施された。	4	5	5	5	4	4.6
小 計	44	45	48	50	44	46.2
2 指定管理者の創意工夫 【配点15点】						
(ア) 指定管理者の持つ経験・専門性を活かし、多彩な事業を企画・実施した。	5	5	5	5	5	5
(イ) 指定管理者の持つネットワーク・ノウハウを活かし、他社との共催・連携に積極的に取り組み、利用者の増に努めた。	5	5	4	5	5	4.8
(ウ) 静岡音楽館の利用や主催事業について、市民に対し積極的な広報活動を実施した。	3	3	4	4	4	3.6
小 計	13	13	13	14	14	13.4
3 市民（利用者）のサービスの向上 【配点15点】						
(ア) 利用者の満足度調査において高い評価を受けた。	4	4	5	4	5	4.4

(イ) 職員の対応力向上に努めるとともに、利用者の苦情等には速やかに対応し、利用者の意見を取り入れた。	4	5	4	4	4	4.2
(ウ) より多くの利用者の利便性を考慮し、貸館利用率の増及び主催事業の公演における来場者の増に努めた。	4	3	4	4	4	3.8
小 計	12	12	13	12	13	12.4
4 施設固有の評価項目 【配点20点】						
(ア) 様々な層に対し普及事業を行い、音楽文化の普及に努めた。	5	5	5	4	5	4.8
(イ) 音楽活動、音楽普及の担い手の育成に努めた。	5	5	5	5	5	5
(ウ) 静岡市美術館、静岡科学館と連携して事業を実施し、中心市街地の賑わい創出に貢献した。	4	4	4	4	4	4
(エ) 市の文化行政や「まちは劇場の推進」においても、音楽の専門性を活かして協力した。	4	4	4	5	4	4.2
小 計	18	18	18	18	18	18
合 計	87	88	92	94	89	90

※ 評価委員名は記載しない

※ 平均点は、少数点以下第2位を四捨五入する。

各評価委員の所見のまとめ（※各評価委員の所見をそのまま記載してください。）

【A評価委員】 ・危機管理という面でR6年度に有客で実施した避難訓練コンサートは、机上で気づかない課題発見もあり、マニュアルの見直しに繋がったのは高く評価できる。 ・東京文化会館との連携をはじめとし、指定管理者の専門性やネットワークを活かした事業を多数実施しており評価したい。 ・名手たちやこどものための音楽広場では、多くの卒業生を輩出し、担い手育成に貢献している。 ・30年という節目を今年度むかえ、これまで積み重ねてきた専門性、ネットワークが活かされていると感じた。音楽館の特性を熟知した専門人材にさらに魅力のある事業展開を期待する。
【B評価委員】 ・概ね満足できるが、一部目標に達していない項目があった。 ・もう少し独自の広報活動を期待したい。 ・貸館利用率を上げるように期待。 ・中心市街地の賑わいが実感できるように期待する。 ・音楽事業については、本当に素晴らしい。
【C評価委員】 ・SNSは有効に工夫し使われている。フォロワーの確保に努めたい。 ・公演等入場率、R5→R6▲7ポイント ・中心市街地のにぎわい創出にどのような貢献があるのかは不明。
【D評価委員】 ・芸術性の高いコンサートの企画やアカデミックな催し物を開催して、音響特性の優れたコンサートホールの基本的機能を活かした施設運営が行われている。安全管理や施設運営が行われている。 ・長年の経験と職員の専門性を活かした様々な工夫が認められている。地域の学校等に対するアウトリーチ活動も高く評価できる。広報活動についてもSNSの活用などを積極的に行っている。 ・利用者の苦情や意見を真摯に受け止め、可能な範囲で改善に努めている。 音楽館だけの裁量では難しいところも多いが、地下からのエレベーター利用や自販機のある7階との行き来などは、案内の方法も含めて改善したいところである。 ・中心市街地の賑わいとの関連については、具体的な評価が難しいところがあるが、「静岡の名手たち」のオーディション、他施設との連携やランチタイムコンサートなど、普及事業に努めている。
【E評価委員】 ・コロナの影響もある中、工夫をしながら事業を展開してきたことがわかる。意欲的な催し物を組み合わせながら、バランスよく事業を開催し目標をほぼ達成している点は高く評価できる。県庁所在地のホールとしての役割を強く意識した運営である。

- ・市内の他施設との連携を積極的に行っている。運営がかなり大変だと思うが、長く続けていっていただきたい。
- ・静岡はもともと防災意識が高い地域のため、各自治体が強固な防災計画を立てていると思う。ホールも体制がしっかりと考えられており、素晴らしいと思う。ぜひ、このままバージョンアップしていただきたい。
- ・近年特に若い世代の転職傾向が強く、人材の確保が分野を問わず大変だと思う。その中で、配置体制が維持されているのは尽力されている証でしょう。今後もホール運営に関わるいい人材を育てていきたい。

評価委員会としての意見

基本的な履行状況から静岡音楽館固有の評価項目まで全体的に高評価であり、良好な運営がなされたと評価できる。

今後も引き続き、管理運営に関する基本理念のもと、指定管理者の持つ経験や専門性及びこれまでの実績によって構築されてきたネットワークを活かし、鑑賞者の拡大や音楽への関心を高める機会の提供を期待する。